

メッセージ 3

魂において一となって、キリストを享受することは、
一つの事を思うことによってであり、
キリストの内側の各部分（心の深み）において
キリストと一であることによってであり、
神にわたしたちの内でも活動していただき、神の大いなる喜びのために、
願わせ働かせるようにしていただくことによってである
聖書：ピリピ1:4, 8, 18, 25, 27. 2:2, 12-13, 17-18, 28-29.
3:1. 4:1, 4, 10, 15-16

- I. 厳密に言って、ピリピ人への手紙は、キリストを経験することについての書であるだけでなく、キリストを享受することについての書でもあります。キリストを経験することはおもにわたしたちの霊の中でのことですが、キリストを享受することはわたしたちの魂（わたしたちの思い、感情、意志）の中でのことです：
- A. ピリピ人への手紙はキリストに対する経験と享受についてであり、その結果は喜びであるので、それは喜びと歓喜に満ちた書です——ピリピ1:4, 18, 25. 2:2, 17-18, 28-29. 3:1. 4:1, 4。
- B. ピリピの聖徒たちは、使徒パウロの務めを通して、福音を前進させる交わりを持ちました。この交わりにあずかることは、使徒への経済的な供給も含まれていました——ピリピ4:10, 15-16：
1. キリストを経験し享受する生活は、福音を前進させる生活、福音を宣べ伝える生活であり、個人的ではなく団体的です。わたしたちは福音を前進させる交わりを持てば持つほど、ますますキリストを経験し享受します。これはわたしたちの自己、野心、好み、選択を殺します。
 2. わたしたちが語っても静かにしていても、わたしたちの命、生活、存在、パーソン全体は、キリストを宣べ伝えることでなければなりません——ピリピ1:20. 4:22. 参照、Ⅱコリント3:3。
- C. パウロはわたしたちに、「キリストの福音にふさわしく」振る舞うように、すなわち、「一つ霊の中でしっかりと立ち、一つ魂をもって、福音の信仰と共に奮闘して」いるようにと命じています——ピリピ1:27：
1. 福音の働きのために一つ魂であり、同じ魂であることは、一つ霊の中でキリストを経験することよりも難しいのです。テモテは、使徒パウロと同じ魂の兄弟でした——ピリピ2:19-21, 参照、30節。
 2. 一つ魂であることは、わたしたちが霊の中で再生された後、前進してわたしたちの魂の中で造り変えられることを必要とします——Ⅱコリント3:18. ローマ12:2。
 3. もしわたしたちが情感、思想、決定において一でないなら、一つ魂ではありません。わたしたちは魂において一でない限り、福音を前進させる交わりの中におらず、わたしたちの振る舞いは福音にふさわしくありません。
 4. 召会のすべての肢体が一つ霊の中において一つ魂であるなら、この一は人を納得

させ、従わせ、引き寄せ、わたしたちはキリストを経験し、彼を享受します。

D. わたしたちはキリストを経験しても、キリストを享受していない可能性があります。この問題は、わたしたちの魂（わたしたちの思い、感情、意志）にあります。食物を食べさせられてもその食物を享受していない子供のように、多くの時わたしたちはキリストを経験しても彼を享受していません。

E. 「わたしは、あなたがたがあまりキリストを享受していないかもしれないことを、いくらか心配しています」（ウイットネス・リー全集、1978年、第1巻（下）、「キリストを経験する」、第2編）。多くの人がキリストに対する享受を失っているのは、彼らが魂に問題を持っているからです。もしあなたがたがあまりキリストを享受していないなら、それはあなたがたが魂において一でなく、魂において結合されていないことを示します——ピリピ2:2。

II. わたしたちは魂において一であるために、一つの事を思う必要があります。ピリピ人への手紙における「一つの事」とは、キリストに対する主観的な認識と経験と享受を指しています。「一つの事」とは、キリストを追い求めて、彼を獲得し、彼を捕らえ、彼を所有することです——ピリピ1:20-21. 2:2, 5. 3:7-14. 4:13 :

A. わたしたちはキリストのからだの実際の中で生きるために、キリストを極みまで愛することによってキリストを享受しなければなりません。そしてキリストを愛するために、わたしたちの思いは、かたくなにされること（IIコリント3:14）、くらまされること（4:4）、反逆的であること（10:4-5）、腐敗させられること（11:2-3）から、救い出される必要があります。

B. わたしたちの思うことは、キリストを知る知識の卓越性に集中しているべきであり、またキリストに対する経験と享受とに集中しているべきです。他の何かに集中することは、わたしたちに異なる事を思わせ、こうしてわたしたちの間に不和を作ります——Iコリント1:10. ピリピ3:8-9, 15. 4:2。

C. 主の回復における一つの事、唯一の事は、キリストをその中心性と普遍性とする神の永遠のエコノミーです——コロサイ3:10-11 :

1. 主の回復の中で集中し、強調し、供給すべき一つの事は、神の永遠のエコノミーです——Iテモテ1:3-4。

2. 神の永遠のエコノミーの内容はキリストです。実は、三つの段階からなるキリストの満ち満ちた務めにおけるキリストご自身が、神聖なエコノミーです（ヨハネ1:14. Iコリント15:45後半. 啓1:4. 3:1. 4:5. 5:6）。神の願いは、純粋に、また完全にキリストのパーソンを回復することです（コロサイ1:17後半, 18後半. IIコリント12:2前半. 2:10. 3:3）。

D. ピリピ人の間に、思うことで不和があり（ピリピ4:2）、それが使徒を悩ませました。ですから、彼は彼らに同じ事を思い、一つの事をさえ思って、彼の喜びが満ちるようにすることを求めました（2:2） :

1. 一つの事以外の事を思うことは、神のエコノミーに反逆することです。神のエコノミーは、わたしたちが一つの事を思うことです。召会生活においてわたしたちは、すべての聖徒が一つの事を思うように助ける必要があります。わたしたちの思うことは、召会生活、からだの生活のために、キリストを享受するこ

とに集中し、キリストを享受することで満たされているべきです。

2. ピリピ人の信者たちは、彼らの思うことでの不和のゆえに、異なる程度の愛を持っていました (2:2)。彼らはすべての聖徒に対して同じ愛を持って一を守ることをしていませんでした。聖徒たちに対するわたしたちの愛が調整され対処されているなら、わたしたちは聖徒たちを愛するとき、キリストを享受します。
3. 魂において一であり、魂において結合されることは、キリストを経験するためだけでなく、それにもましてキリストを享受するためです。キリストを享受するために、わたしたちは正しい魂、すなわち、他の聖徒たちの魂と一である「共同の魂」を持つ必要があります。

Ⅲ. わたしたちは魂において一であるために、キリストの感情、すなわち彼の「内側の各部分（心の深み）」（彼の内側の愛情、優しいあわれみ、同情を表徴する）において、キリストと一である必要があります——ピリピ1:8：

- A. 人として、キリストの内側の各部分における彼の経験は、彼の愛、願い、喜び、感覚を含んでいました——詩16:3, 7（回復訳のフットノートを参照）。
- B. パウロは、彼の天然の内なる存在の中で生活したのではありませんでした。彼は、キリストの内側の各部分の中で生活しました。もしわたしたちが、経験的にキリストの中にいる者になろうとするなら、彼の内側の各部分の中に、すなわち、彼の優しい細やかな感覚の中になければなりません——コロサイ3:12。
- C. ピレモンへの手紙には、キリストの内側の各部分の中で生きるからだの生活の絵があります——ピレモン7, 10-12, 20節：
 1. オネシモはローマでパウロと共に獄中にいた間に、パウロを通して救われました。パウロは彼のことを、「わたしが……捕らわれの身で生んだわたしの子供」と述べました——10節。
 2. パウロは彼の手紙を持たせてオネシモをピレモンに送り返した時、次のように言いました、「彼 [オネシモ] をわたしはあなたに送り返しました——彼は、わたしの心そのものです」——12節。
 3. パウロの内側の愛情と思いやりは、オネシモと共にピレモンの所へ行きました。「心そのもの」という言葉は、文字どおりには、ピリピ第1章8節の「心の深み」と同じであり、それは内側の愛情、情け深さ、思いやりを表徴します——コロサイ3:12。
- D. パウロは、キリストの感覚を自分自身の感覚とすることによって、キリストのからだの実際の中で生きました。からだに対するキリストの感覚は、からだに対するパウロの感覚となりました。わたしたちがからだの生活をするために、これが最も必要とされます——Ⅱコリント12:15。
- E. もしわたしたちが自分自身を否み、自分自身をからだと一体化するなら、からだからの分離や断絶はありません。わたしたちが生きる生活は、完全にかからだの生活となり、主は今日、地上において彼のからだの表現を得ます——マタイ16:24。エペソ4:16。
- F. わたしたちがキリスト・イエスの内側の各部分の中で生きれば生きるほど、キリストのからだについてのわたしたちの意識はますます大きくなり、キリストの

らだに対するわたしたちの感覚はますます強くなります—— I コリント12:26-27。
ローマ12:15。

IV. わたしたちは魂において一であるために、わたしたち自身の救いを成し遂げる必要があります。それは、内側で活力を与える神と協力することによってです。この神はわたしたちの内で活動し、「神の大いなる喜びのために、願わせ働かせ」ます——ピリピ2:12-13:

- A. わたしたちが、わたしたち自身の救いを成し遂げるのは、神がわたしたちの内側で働いているからです。わたしたちは、自分にはその願いが無いと言うかもしれませんが、神は願いをわたしたちの中へと造り込んで、彼の偉大な喜びを成し遂げます。願わせることは内側のことであり、働かせる（成し遂げる）ことは外側のことです。
- B. わたしたちは霊を活用し、征服され復活させられた意志をもって、わたしたち自身の救いを成し遂げることを選択する必要があります。それは、内住する三一の神と協力することによってです。彼はわたしたちの内で活動し、彼の偉大な喜びのために、願わせます。
- C. わたしたちの造り変えられた意志は、予表において雅歌第4章4節において見ることができます。この節が述べていることは、主の愛する追い求める者の「首は、武器倉のために建てられたダビデの塔のようだ。その上には千の小盾、すべて勇士の大盾がかけられている」ということです:
1. 聖書は、自己の意志にしたがって歩み、かたくなで高ぶっている人を、首の硬い者（イザヤ3:16、原文）と述べています。ですから、この首は、人の意志を表します。主は人の意志が服従することを、人における最も美しい事柄と考えます。
 2. 首が塔のようであることが表徴するのは、追い求める者の意志が、神によって強められていて、もはやこの世を愛することもなく、もはやサタンによって影響されることもないということです。彼女の意志は、ダビデ（キリストを表徴する）への完全な服従へともたらされています。また彼女の意志は、キリストによって捕らえられています。
 3. 塔の中に蓄えられた武器倉は、キリストの勝利を表徴し、それは信者たちの意志が敵の強奪から守られるためです。小盾と大盾は防御のためです。勇士は、強さを表します。
 4. まとめれば、雅歌第4章4節が示していることは、信者が進んでキリストの意志に服従することと、彼女の意志がキリストの意志を遂行するために塔のように強いということです。彼女は、油断せずに警戒しており、敵が彼女の従順な意志を強奪することを許しません。
- D. わたしたちがキリストに従順の命として経験して、わたしたち自身の救いを成し遂げることは、ノアが建造した箱船の予表において見られます。箱船を建造することは、わたしたちの経験において神の救いとしての実際的な現在のキリストを建造することであって、それは神の大いなる喜びのために団体的なキリストとしてのキリストのからだを建造するためです——ピリピ2:8, 12-13:

1. ノアが造り、入ったのは、神の救い、すなわち箱船でした。わたしたちは実際的な現在のキリストを持つべきであり、わたしたちは神の救いとしてのキリストの中へと入ることができます。
2. 箱船はキリストの予表であり、それは個人のキリストを予表するだけでなく、団体のキリスト、召会、すなわちキリストのからだと新しい人をも予表します——創6:14. I コリント12:12. エペソ2:15-16. コロサイ3:10-11。
3. ノアは箱船を建造し、またその中へと入ることによって、洪水による邪悪な世代に対する神の裁きから救われただけでなく、またその世代から分離されて、新しい時代の中へともたらされました——創8:13-19. I ペテロ3:20。
4. 同様に、わたしたちの経験において神の救いとしての実際的な現在のキリストを建造することを通して、召会を建造することと召会生活の中へと入ることによって、わたしたちは大患難による今日の邪悪な世代に対する神の裁きから救われます (マタイ24:37-39. ルカ17:26-27. I テサロニケ5:3)。そして、その世代から分離され (ルカ21:36. 啓3:10)、新しい時代、すなわち千年王国の時代の中へともたらされます。

©2023 Living Stream Ministry